

平成 27 年度事業報告

■公益目的事業 1（「創造する伝統賞」の主催）

（定款第 4 条第 1 項第 2 項）

◆助成顕彰事業（第 22 回）

平成 28 年 2 月 4 日の理事会の審議を経て 2 名に授与した。

「第 7 回創造する伝統賞」 賞金各 100 万円

- 須田 悦弘（46 歳） 美術家
- 繭山 浩司（54 歳） 美術古陶磁復元師

（1）対象

日本の伝統文化及び現代芸術の広い分野を対象とする。国籍不問。

（2）募集応募概況

発 送 先：美術館、博物館、新聞社、雑誌、大学、財団役員他関係者、文化藝術の会会員、
歴代助成顕彰関係者、評論家、画廊、授賞式典出席者、資料請求者、
これまでの受賞関係者、

発 送 数：1,011 通

告 知：当財団 WEB サイト、邦楽ジャーナル、美術の窓

応募総数：47 件（一般公募 34 件、推薦応募 13 件）

（3）選考委員会

開催日時：平成 28 年 1 月 15 日 16：30～18：00

開催場所：公益財団法人日本文化藝術財団 会議室

出 席 者：金子賢治委員長、尼崎博正委員、新谷尚紀委員、根岸吉太郎委員、
花光潤子委員、古山正雄委員

書面出席：柏木博委員、中村真規委員

役 員：北村誠代表理事（オブザーバー）

事 務 局：事務局員 2 名

選考方法：事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼した。

選考委員会当日、事前審査による候補者を各委員が発表し、応募者から提出された DVD、CD、ポートフォリオ、論文集、カタログ、パンフレット、著書、掲載書籍等を視聴及び回覧した。

各委員より意見を出し合い、選出候補者を絞り、さらに審議し各委員の同意の上で、選出者を決定した。

（4）理事会の決議

平成 28 年 2 月 4 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 2 名への「創造する伝統賞」授与を決議した。

（5）授与式典の開催

開催日時：平成 28 年 4 月 28 日（木） 14：00～17：20

開催場所：明治記念館（曙の間）

出 席 者：〔授 賞 者〕 須田悦弘、繭山浩司

〔助成顕彰選考委員〕 金子賢治委員長、中村真規委員、花光潤子委員、

- [奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、成田宏紀委員、
原高史委員、藤本由紀夫委員、
- [専門委員] 葛西聖司委員、宮島達夫委員、茂手木潔子委員
- [役員] 千玄室会長、徳山豊代表理事、北村誠代表理事、
大野木啓人理事、竹内昌義理事、渋谷佳樹監事、
野呂英美子評議員
- [来賓] 文化庁文化部芸術文化課課長 加藤敬様

内 容：会長挨拶、文化庁加藤様祝辞、選考委員からの選評、賞状・賞金目録の授与、
併催の日本文化藝術奨学金選評、奨学金証書・目録の授与、受賞者紹介、
記念撮影、受賞者との懇談

(6) 賞金の授与

平成 28 年 5 月 本人名義の口座に振込にて授与

(7) 受賞者の紹介

当財団 WEB サイト

受賞者紹介の小冊子を作成し授賞式で配付、その他関係者へ送付

■公益目的事業 2 (芸術系大学等に在学する学生及びその他の学生に対する奨学金の給付)
(定款 第 4 条 第 3 項)

◆育英事業

「日本文化藝術奨学金」

平成 27 年度育英事業として「日本文化藝術奨学金」の募集を行い、平成 27 年 12 月 14 日
に選考委員会を開催。平成 28 年 2 月 4 日の理事会の審議を経て、6 名を奨学生として決定し
た。うち 1 名については決定後に休学の届出があったため平成 28 年 3 月 23 日の理事会で復
学後支給について決議した。(休学の届出があった奨学生の氏名：柴田みづき)

日本文化藝術奨学金 各 50 万円

- 柴田 みづき 東京藝術大学大学院 美術研究科美術専攻油画研究領域
博士 2 年 (28 歳)
- 竹腰 耕平 京都精華大学大学院 芸術研究科芸術専攻立体造形領域
修士 1 年 (23 歳)
- 田邊 真弓 京都造形芸術大学大学院 芸術研究科芸術専攻 総合造形領域
博士 1 年 (25 歳)
- 三輪 彩音 多摩美術大学大学院 美術研究科絵画専攻 日本画研究領域
修士 1 年 (27 歳)
- 山里 奈津実 京都造形芸術大学大学院 芸術研究科芸術専攻 ペインティング (日本画) 領域
博士 1 年 (25 歳)
- 横井 えり 東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科芸術文化専攻 日本画領域
博士 3 年 (32 歳)

(1) 対象者

次の条件を充たし、文化・芸術の分野で将来にわたり活動が期待され、才能・可能性が認
められる者

(1) 国内の芸術系大学の大学院に就学しており、かつ次年度在籍予定者であること

(2) 学業成績、生活態度共に優秀で、健康な学生であること
※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。

(2) 募集応募概況

募 集：大学院生 6名 奨学金 1年間 50万円の給付
募集期間：平成27年11月1日から平成27年11月11日（当日消印有効）
申請書類：①奨学生願書 ②推薦書 ④成績証明書 ⑤在学証明書
応募状況：31名
・前年と比べ、応募総数が増加した。（+11件）
・対象外の在籍校および在籍状況の応募が3件あった。

(3) 選考委員会

開催日時：平成27年12月14日（月） 14：00～16：30
開催場所：公益財団法人日本文化芸術財団 会議室
出席者：寺脇研委員長、木村博昭委員、成田宏紀委員、原高史委員、藤本由紀夫委員
役員：野呂英美子評議員（オブザーバー）
事務局：事務局員2名

○選考資料

- ・日本文化芸術奨学金 学校別応募人数
- ・日本文化芸術奨学金 学校別過去の受給者数
- ・日本文化芸術奨学金 受給者詳細リスト ※事前送付
- ・応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・応募者資料（ポートフォリオ等参考資料）

○選考方法

事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼。
選考委員会当日、事前審査による候補者を各委員6名ずつ発表し、応募者から提出されたポートフォリオ、DVD等参考資料を視聴・回覧した。
各候補者の推薦理由をそれぞれ挙げ、票数の最も多い中から3名を満場一致で選出した。次に票数の多い候補者に対し審議し、1名を選出した。
票数がわかれた候補者の中から、特に注目する候補者についてそれぞれ意見を述べた上で再審議し、2名を選出した。

(4) 理事会の決議

平成28年2月4日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された6名に奨学金授与を決議した。

(5) 授与式典の開催

開催日時：平成28年4月28日（木） 14：00～17：20
開催場所：明治記念館（曙の間）
出席者：[奨学生] 竹腰耕平、田邊真弓、三輪彩音、山里奈津実、横井えり
[奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、成田宏紀委員、
原高史委員、藤本由紀夫委員、
[助成顕彰選考委員] 金子賢治委員長、中村真規委員、花光潤子委員、
[専門委員] 葛西聖司委員、宮島達夫委員、茂手木潔子委員
[役員] 千玄室会長、徳山豊代表理事、北村誠代表理事、
大野木啓人理事、竹内昌義理事、渋谷佳樹監事、

野呂芙美子評議員

[来 賓] 文化庁文化部芸術文化課課長 加藤敬様

内 容：会長挨拶、文化庁加藤様祝辞、併催の創造する伝統賞選考委員からの選評、
創造する伝統賞賞状・賞金目録の授与、
日本文化藝術奨学金選評、奨学金証書・目録の授与、受賞者紹介、
記念撮影、奨学生との懇談

(6) 奨学金給付

平成 28 年 4 月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付
平成 28 年 9 月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

「加藤定奨学金」

平成 27 年度育英事業として「加藤定奨学金」の募集を行い、平成 27 年 12 月 14 日に選考委員会を開催。平成 28 年 2 月 4 日の理事会の審議を経て、6 名を奨学生として決定した。

➤ 京都・奨学金給付大学生 3 名

- 山田 早織 京都造形芸術大学 芸術学部美術工芸学科 染織テキスタイルコース
3 年 (20 歳)
- 田村 昂也 京都造形芸術大学 芸術学部情報デザイン学科 イラストレーションコース
2 年 (19 歳)

➤ 全国・奨学金給付大学生 3 名

- 岩崎 美ゆき 武蔵野美術大学 造形学部映像学科
2 年 (28 歳)
- 小林 知世 東北芸術工科大学 芸術学部美術科 洋画コース
3 年 (21 歳)
- 佐藤 夏実 東北芸術工科大学 芸術学部美術史・文化財保存修復学科 立体作品修復
3 年 (21 歳)
- 永沢 碧衣 秋田公立美術大学 美術学部美術学科 アーツ&ルーツ専攻
3 年 (20 歳)

(1) 対象者

次の条件を充たす者

- (1) 国内の芸術系大学の 2 年生及び 3 年生に就学し、かつ次年度在籍予定者であること
- (2) 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由によって就学に支障をきたしている学生であること

※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。

(2) 募集概況

募 集： 大学生 6 名 奨学金 1 年間 30 万円の給付

募集期間： 平成 27 年 11 月 1 日から平成 27 年 11 月 11 日 (当日消印有効)

申請書類： ①奨学生願書 ②推薦書 ④成績証明書 ⑤在学証明書 ④所得証明書

応募状況： 応募総数 15 名 (京都 2 名、全国 13 名)

・ 京都の芸術系大学からの応募が 1 校のみと、減少した。

(3) 選考委員会

開催日時： 平成 27 年 12 月 14 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 30

開催場所： 公益財団法人日本文化芸術財団 会議室

出席者：寺脇研委員長、木村博昭委員、成田宏紀委員、原高史委員、藤本由紀夫委員
役員：野呂芙美子評議員（オブザーバー）

事務局：事務局員 2 名

○選考資料

- ・ 加藤定奨学金 学校別応募人数・受給者数
- ・ 応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・ 困窮度順リスト ※事前送付

○選考方法

事前に選考委員に全応募者の資料（提出された所得証明書や応募書類より[認定所得額]（日本学生支援機構奨学金の控除額の算出方法を参考にした計算式で算出したポイント）を算出したものを含む）を送付し、閲覧を依頼。

選考委員会当日、事前審査による候補者を各委員京都 2 名、全国 4 名ずつ発表。

[京都]

各候補者の経済状態、成績を確認したうえで支給に値するかを審議し、満場一致で 2 名を候補者として選出した。

[全国]

各候補者の経済状態、成績、応募書類を確認したうえで推薦理由をそれぞれ挙げ、過半数を超えた 1 名を候補者として選出した。

再度応募資料を確認し、再審議し、満場一致で 3 名を候補者として選出した。

(4) 理事会の決議

平成 28 年 2 月 4 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 6 名に奨学金授与を決議した。

(5) 奨学金給付

平成 28 年 4 月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付

平成 28 年 9 月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

■公益目的事業 3（自主企画公演、展示・体験活動・セミナー・映画上映・演奏会等の文化祭の開催、ホームページでの情報発信、及び実施事業の記録）

（定款第 4 条第 4 項第 5 項第 6 項）

◆文化芸術普及活動事業

(1) 創造する伝統 社の中の文化祭

当財団の基本理念である「創造する伝統」を体現する実技者（これまでの助成顕彰受賞者）を中心とした催しを開催。社の自然を感じながら文化・芸術に触れ、参加者それぞれがこの体験を通して、文化・芸術への興味を深め、親しむことを目的とする。

<実施概要>

① 【中今茶会】

日 時 : 平成 27 年 7 月 5 日（日）

会 場 : 明治神宮 隔雲亭

特別協力 : 明治神宮

協 力 : 小川流煎茶

後 援 : 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学

参加費 : 無料 (事前申込制) ※茶席参加は文化藝術の会会員のみ
内容 : 明治神宮内の茶室「隔雲亭」を会場とした茶会。これまでの助成
顕彰事業授賞者である龍村光峯氏 (織物美術/第7回日本伝統文
化振興賞)、杉浦康益氏 (陶芸/第14回日本現代藝術振興賞) の
作品を随所に配置した。
来場者数 : 105名

② 【Cross the Arts and Culture】

日時 : 平成28年12月4日 (金)
会場 : 京都造形芸術大学外苑キャンパス、明治記念館
会場協力 : 明治記念館
後援 : 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学
参加費 : 無料 (事前申込制) ※音餐会のみ食事代一部実費徴収
来場者数 : のべ 69名
内容 : さまざまな分野の文化・芸術を体験する企画。第5回創造する伝
統賞授賞者の青木彰時氏 (尺八演奏)、三瀬夏之介氏 (日本画) の
受賞後の活動報告と今後の活動について語る場にもなった。他に、
過去の日本文化藝術奨学金授賞者、専門委員によるワークショップ
を開催した。

① 寄席文字で師走を飾る

時間 : 10:00~12:00
場所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス
参加費 : 無料
講師 : 橘右橘/平成27年度専門員 (委員名: 中村真規)
内容 : 寄席文字の歴史や特徴を学び、実際に文字を書く
体験をした。
参加者数 : 13名

② 音餐会

時間 : 12:45~14:45
場所 : 明治記念館 芙蓉の間
参加費 : 一般 3,000円/文化藝術の会会員 1,000円
演奏 : 青木彰時/第5回「創造する伝統賞」授賞者
内容 : 参加者と演奏家の会食後、演奏を鑑賞。尺八や曲
の解説、今後の活動への抱負など、質疑応答によ
りアーティストとの交流に主眼をおいたサロ
ンコンサートとした。
参加者数 : 21名

③ 日本画ワークショップ「夕焼け空を描く」

時間 : 15:30~17:30
場所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス
参加費 : 無料
講師 : 高橋芙美子/
平成14年度「日本文化藝術奨学金」奨学生
内容 : 日本画の画材 (顔料) の特性を知り、それぞれが
小さな作品制作に取り組んだ。
参加者数 : 17名

④ 三瀬さんに聞いてみたかったこと

時間 : 18:00~19:30
場所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス

参加費：無料
講師：三瀬夏之介／第5回「創造する伝統賞」授賞者
内容：事前に募集した質問や当日の参加者との質疑応答によって進行するトークセッション。参加者も加わり質疑応答を繰り返すことで作家の活動の本質に迫った。
参加者数：18名

(2) 茶論四季おりおり
＜実施概要＞

① 【甦る義経の笛 ―未来へと吹き込まれた命―】

日時：平成27年5月4日（月・祝）14：00～16：00
会場：京都造形芸術大学 外苑キャンパス
協力：赤尾三千子事務所、京都造形芸術大学、鉄舟寺、東北芸術工科大学
参加費：1,000円 ※文化藝術の会会員は無料
内容：○第1部 対談「赤尾三千子×茂手木潔子」
日本音楽研究家の茂手木潔子氏（第2回日本伝統文化奨励賞）が、赤尾三千子氏（第10回日本伝統文化振興賞）の活動について映像資料や画像を用いて紹介、その後二人の対談によって現在赤尾氏が演奏で使用している源義経が所持していたと伝わる「薄墨の笛」について語った。
○第2部 交流会（演奏体験、フリートーク）※お茶・お菓子付
参加者と専門家との交流会。実際に「薄墨の笛」を鑑賞（演奏は無し）、別途用意された横笛での演奏体験など、横笛にふれながら、演奏家・研究者と会話が出来る場を提供。赤尾氏の演奏や楽器に対する思いに触れ、身近に文化・芸術を感じ、深く考える機会となった。参加者全員が現代の文化芸術に対する思いを語りあった。

参加者数：18名

② 【五山の送り火鑑賞と受賞者アトリエ訪問】

日時：平成27年8月16日（金）
会場：唐長修学院工房、京都造形芸術大学瓜生山キャンパス
参加費：無料
来場者数：のべ10名
内容：京都の夏の文化と芸術を堪能し、支援者同士の交流を深める

① 千田堅吉氏アトリエ訪問&手擦り体験

時間：13：30～16：00
場所：唐長修学院工房
講師：千田堅吉／第1回日本伝統文化振興賞
内容：江戸時代から続く唐長の工房を訪問し、当時より受け継がれた版木などの貴重な道具を見学。その歴史や現代での活用法、今後の展開などの話を聞き、実際に唐紙の手擦りを体験した。

② 五山の送り火鑑賞

時間：19：00～21：00
場所：京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス
内容：京都市内でも有数の絶景ポイントでの、五山の送り火の鑑賞。受継がれる文化への考察を深めた。

(3) こども芸術の家プロジェクト（支援）

※「こども芸術の家プロジェクト」は、東日本大震災後において芸術とデザインの力によって被災地への復興支援を継続的に行うことを目的に2011年5月に立ち上げられ、学生や地域も協同した教育支援プロジェクトを実施している。

主 催：東北芸術工科大学

協 力：日本文化藝術財団

事務局：東北復興支援機構（TRSO）

活動内容：被災した子供たちとその家族を対象とするアートキャンプ、イベントの開催

① 「キッズアートキャンプ山形～影絵芝居の制作と発表会」

開催時期：2015年8月9日（土）～8月11日（日）2泊3日

② 「キッズアートキャンプ山形～影絵芝居再上演（福島公演）」

開催時期：2015年8月22日（土）

(4) ブログ 四季おりおり ～日本の祭りと行事～

期 間：平成27年4月1日より平成28年3月1日

更 新：毎月1回（1日） 全12回更新

テーマ：日本各地の風土によって異なる四季の行事を紹介する。

文 章：新谷尚紀（専門委員／国立歴史民俗博物館名誉教授）

U R L： <http://blog.canpan.info/shikioriori>

<掲載内容>

- ・ 第1回 卯月八日 （4/1 更新）
- ・ 第2回 女の家 （5/1 更新）
- ・ 第3回 花田植え （6/1 更新）
- ・ 第4回 お中元 （7/1 更新）
- ・ 第5回 盆踊り （8/1 更新）
- ・ 第6回 お月見 （9/1 更新）
- ・ 第7回 米と日本人：新米の季節 （10/1 更新）
- ・ 第8回 七五三のお祝い （11/1 更新）
- ・ 第9回 冬至 （12/1 更新）
- ・ 第10回 今年はサル年 （1/1 更新）
- ・ 第11回 節分と豆まき （2/1 更新）
- ・ 第12回 ひな祭り （3/1 更新）

(5) その他

○ WEBでの告知、情報公開

ホームページ <http://jp-artsfdn.org/>

facebook <https://www.facebook.com/jparts.fdn>

twitter <https://twitter.com/jpartsfdn>

・ 主催イベント等の告知、申込受付

・ 「創造する伝統賞」および奨学金の募集告知、資料請求受付

・ 文化藝術の会入会案内、受付

・ これまでの助成顕彰事業授賞者、育英事業奨学生の最新の活動情報を発信

○ 賛助会員システム（WEB管理システム）の運用

○ 文化藝術の会会報発行（3回）